



2017年10月期 決算説明資料

株式会社オハラ(証券コード:5218)

Dec.14th.2017



CONTENTS

1 2017年10月期 決算の概況

- 業績のポイント
- 業績サマリー
- 光事業
- エレクトロニクス事業
- 営業損益増減要因
- キャッシュ・フロー

2 2018年10月期 業績見通し

- 見通しサマリー
- 光事業見通しのポイント
- 光事業見通し
- エレクトロニクス事業見通しのポイント
- エレクトロニクス事業見通し
- 見通し数値まとめ
- 設備投資、減価償却費、研究開発費

2017年10月期 決算の概況

新製品の立ち上げに苦戦したものの、露光装置や光通信などの需要を取り込み、業績回復

光事業

- デジタルカメラ市場は、2016年熊本地震後の挽回生産もあり、コンパクトタイプが底堅く推移、レンズ交換式タイプはミラーレス機増加
- 売上高は、デジタルカメラ向け需要が底打ちしたことやプロジェクター向けレンズ材などの販売が増加したことから、前期比増収
- 営業利益は、原料調達の改善や生産性向上に努めたことなどから、黒字転換

エレクトロニクス事業

- 露光装置市場は、半導体、FPD向けともに需要が好調に推移
- 半導体・FPD露光装置向け製品の需要が増加したほか、光通信関連機器用ガラス素材などの販売も増加し、前期比増収増益
- 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム™」は、スマートフォンの液晶保護ガラスフィルム向け中心に、売上高約1億円。スマートフォンのカバーガラス向け立ち上げには至らず

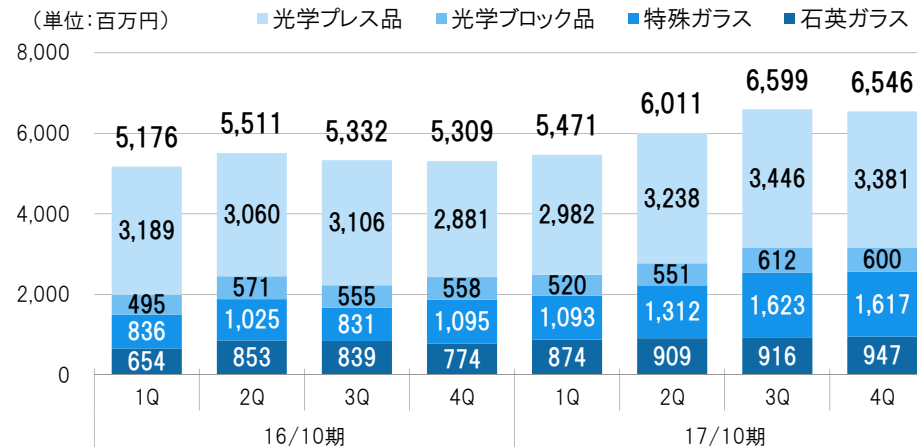
業績サマリー



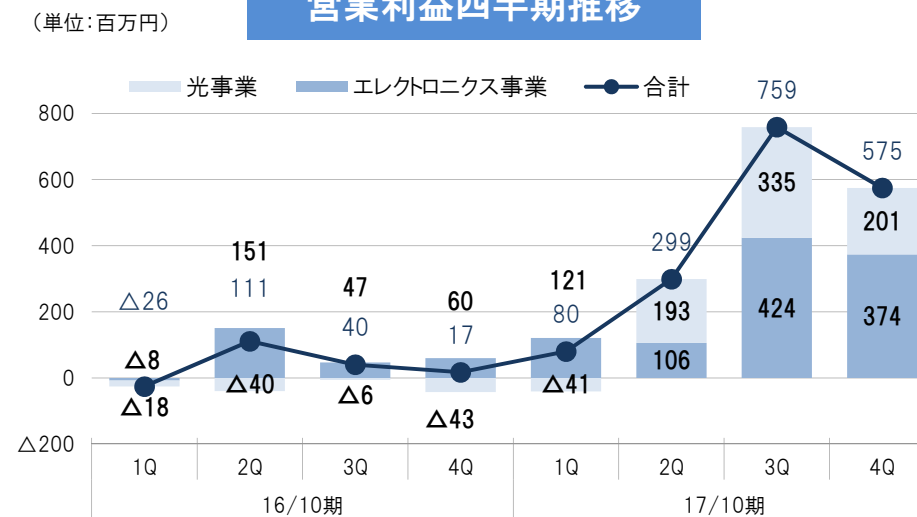
(単位:百万円、%)

	16/10期 通期	17/10期 通期	増減 増減率
売上高	21,329	24,628	3,299 15.5%
営業利益	143	1,715	1,571
[営業利益率]	0.7%	7.0%	1,092.7%
経常利益	△84	2,242	2,326
[経常利益率]	△0.4%	9.1%	—
純利益 (親会社株主に帰属)	△372	1,513	1,886
[純利益率]	△1.7%	6.1%	—
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 110.43 122.35	期中平均 112.04 124.46	
年間配当金 円	10.00	20.00	

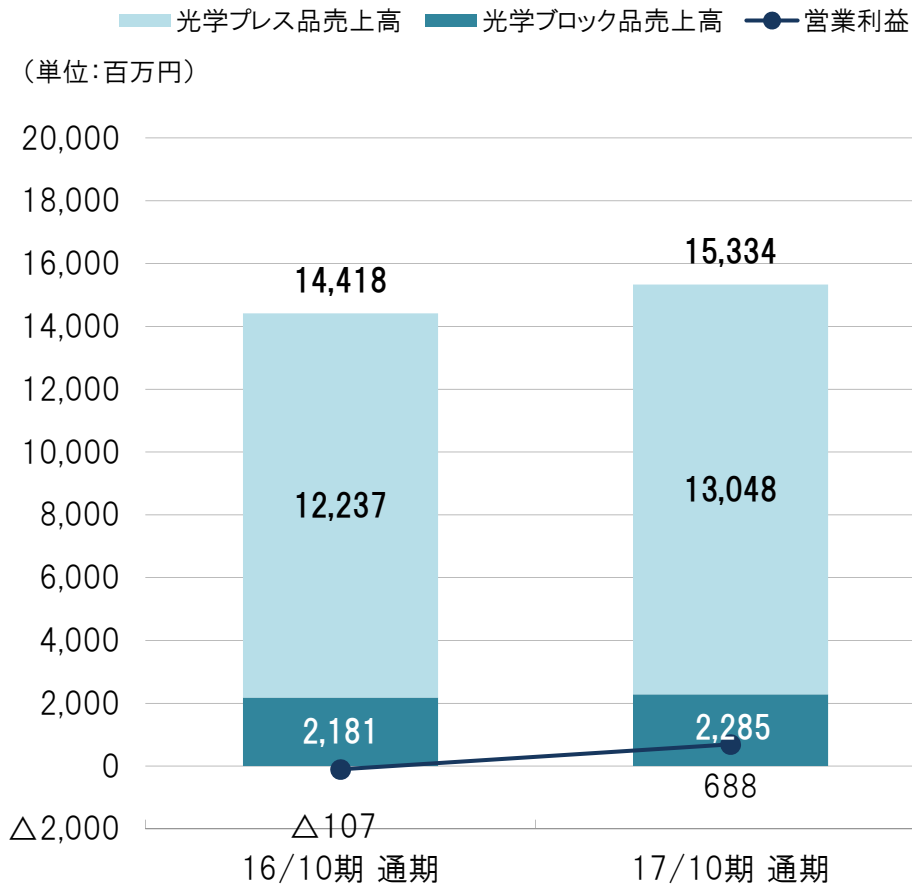
売上高四半期推移



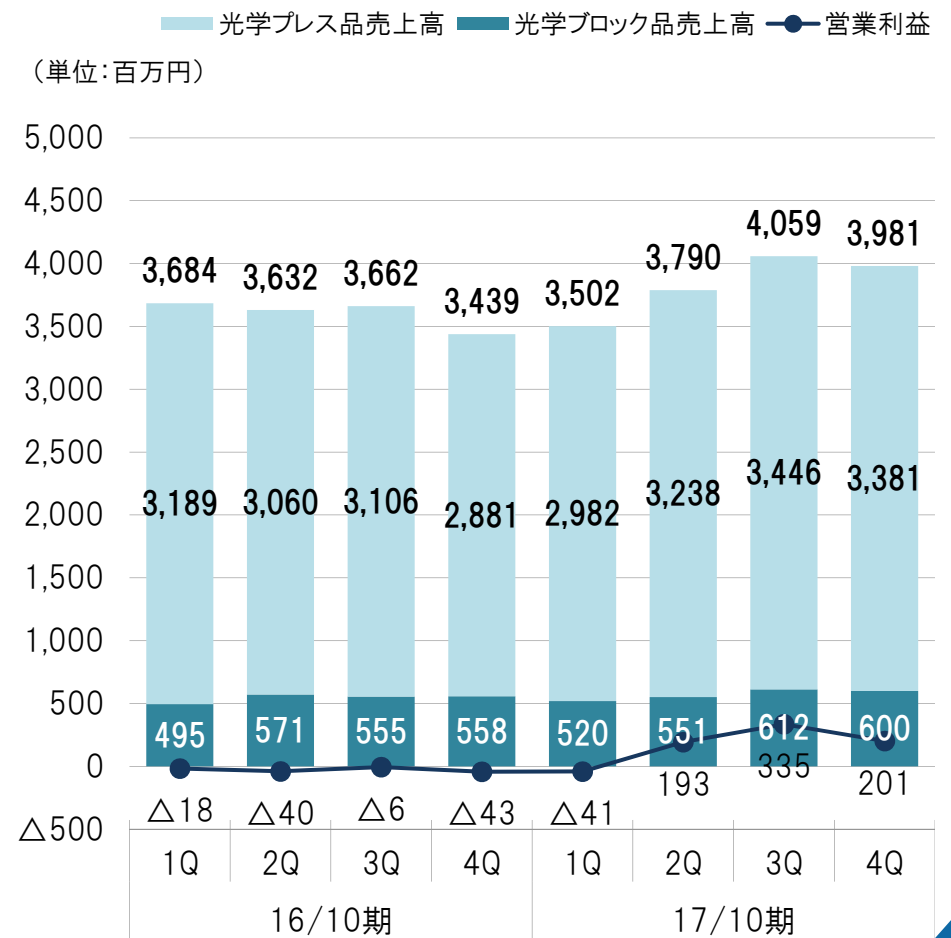
営業利益四半期推移



通期対比

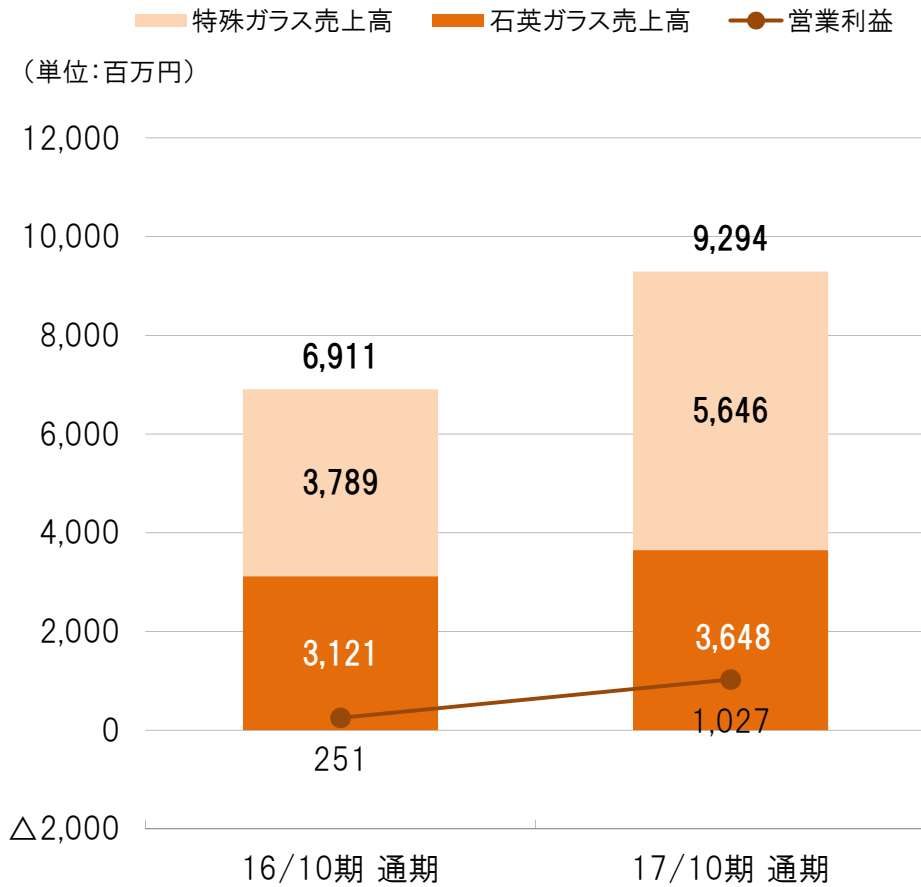


四半期推移

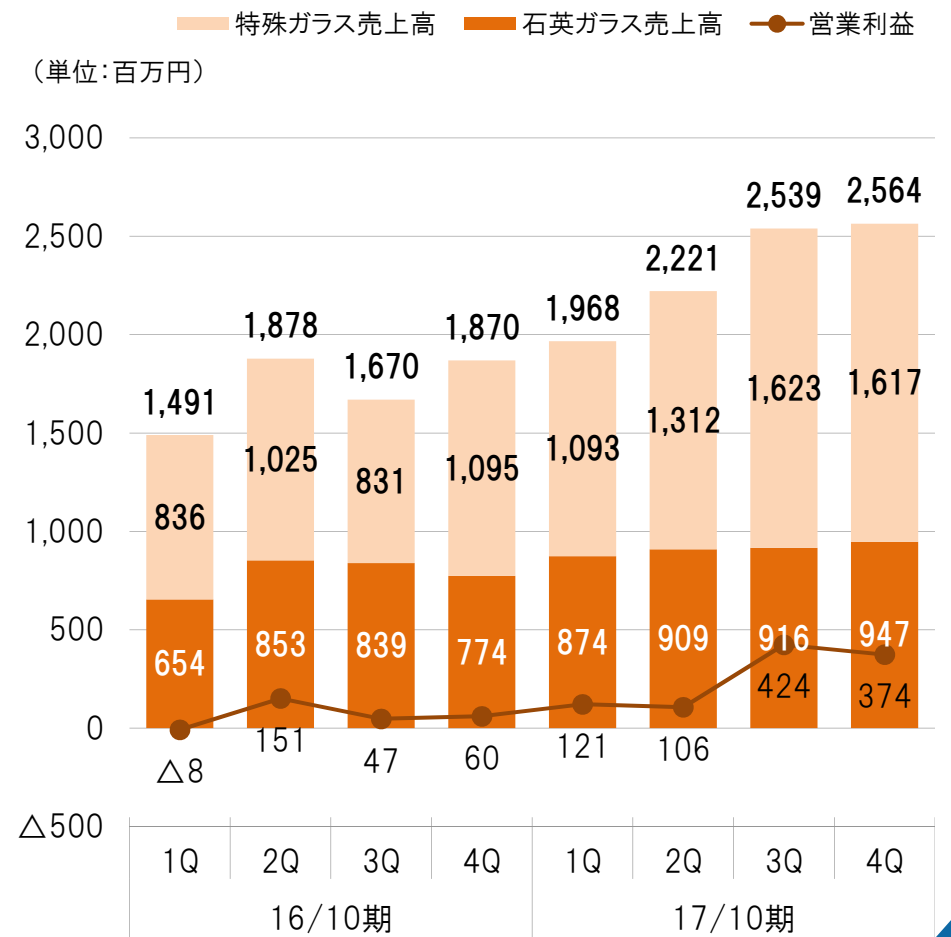




通期対比



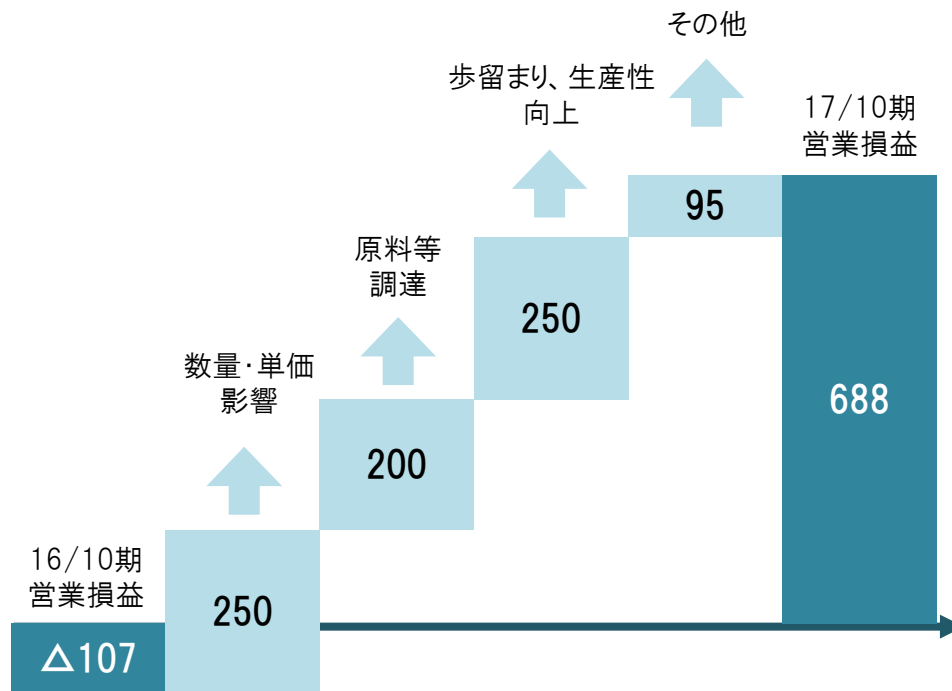
四半期推移



営業損益増減要因

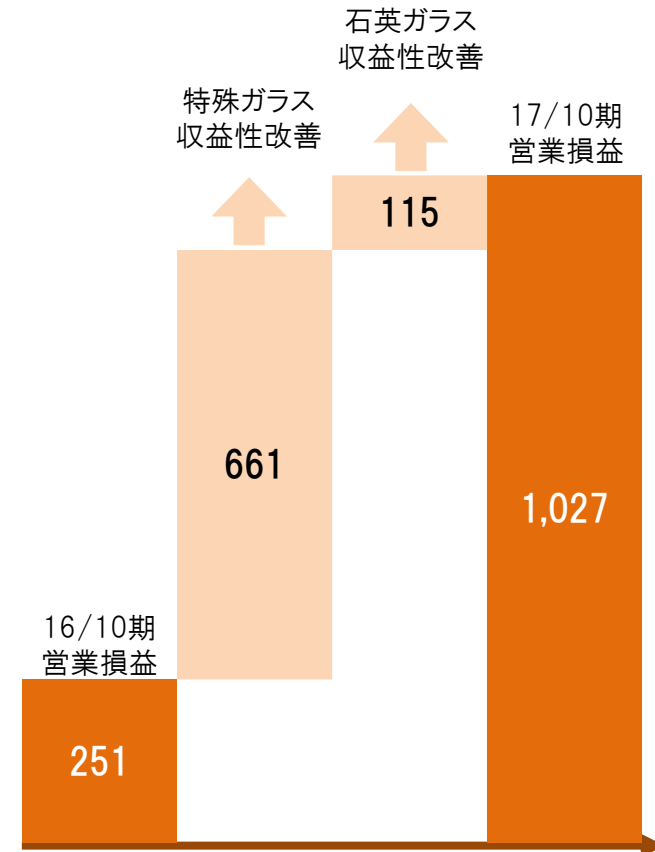
光事業

(単位:百万円)



エレクトロニクス事業

(単位:百万円)



営業CF増減主要因

(単位:百万円)

税金等調整前純利益	2,279
減価償却費	1,590

投資CF増減主要因

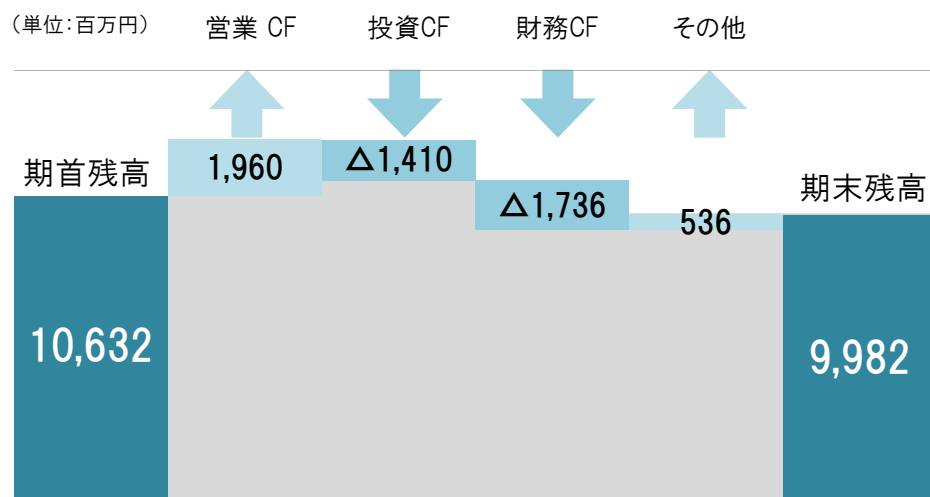
(単位:百万円)

有形固定資産の取得	△1,004
定期預金	△402

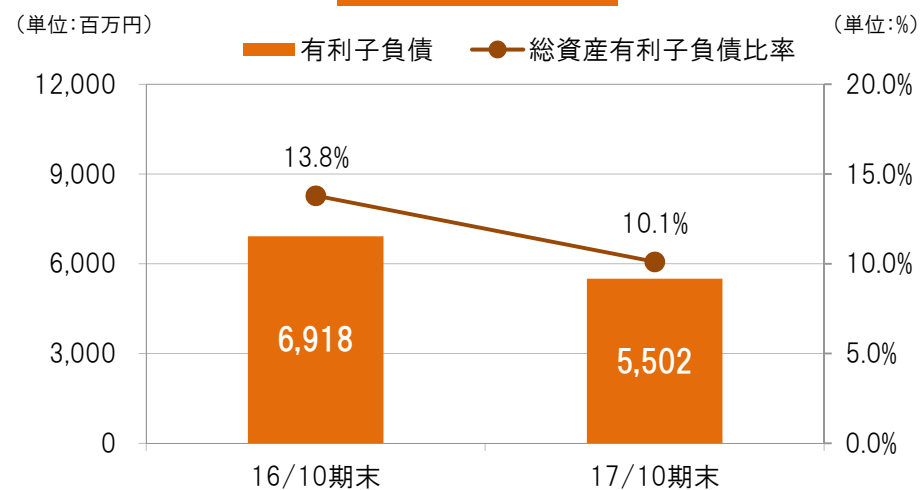
財務CF増減主要因

(単位:百万円)

借入金の返済	△1,486
配当金	△249



有利子負債



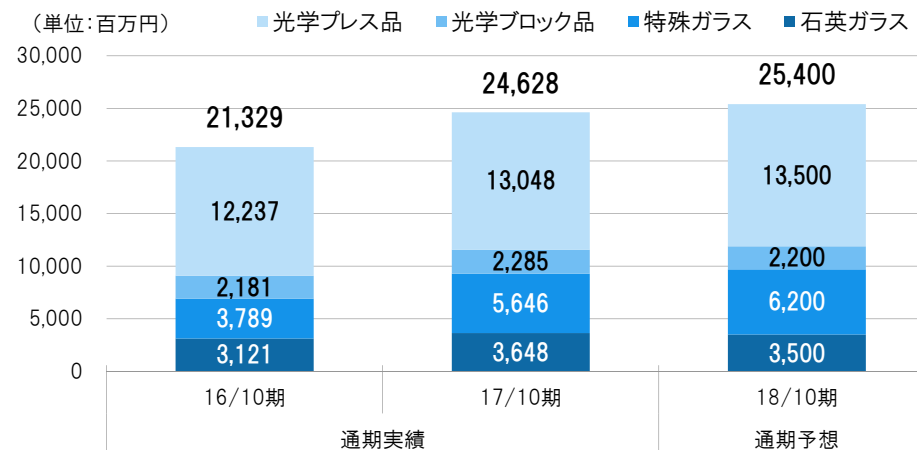
2018年10月期 業績見通し

見通しサマリー

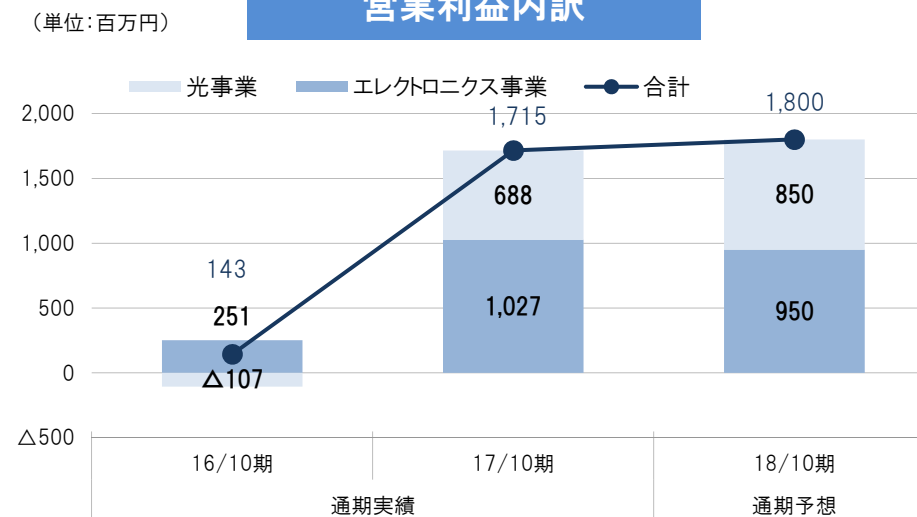
(単位:百万円、%)

	17/10期 通期実績	18/10期 通期予想	増減 増減率	18/10期 上期予想
売上高	24,628	25,400	771 3.1%	12,200
営業利益	1,715	1,800	84	800
[営業利益率]	7.0%	7.1%	4.9%	6.6%
経常利益	2,242	2,000	△242	950
[経常利益率]	9.1%	7.9%	△10.8%	7.8%
純利益 (親会社株主に帰属)	1,513	1,600	86	750
[純利益率]	6.1%	6.3%	5.7%	6.1%
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 112.04 124.46	期中平均 110.00 120.00		期中平均 110.00 120.00
年間配当金 円	20.00	20.00		

売上高内訳



営業利益内訳



ハイエンド光学機器向け新製品やレンズ加工品の拡販で、新たな光学ガラスの需要を取り込む

事業環境

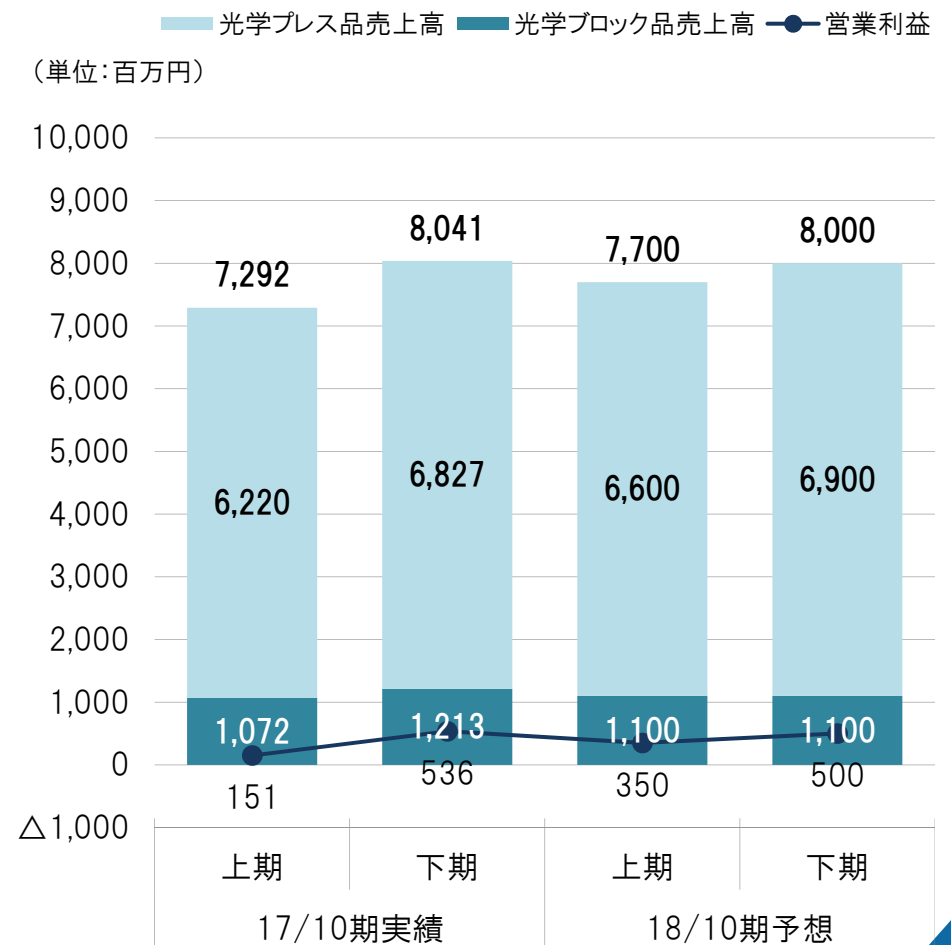
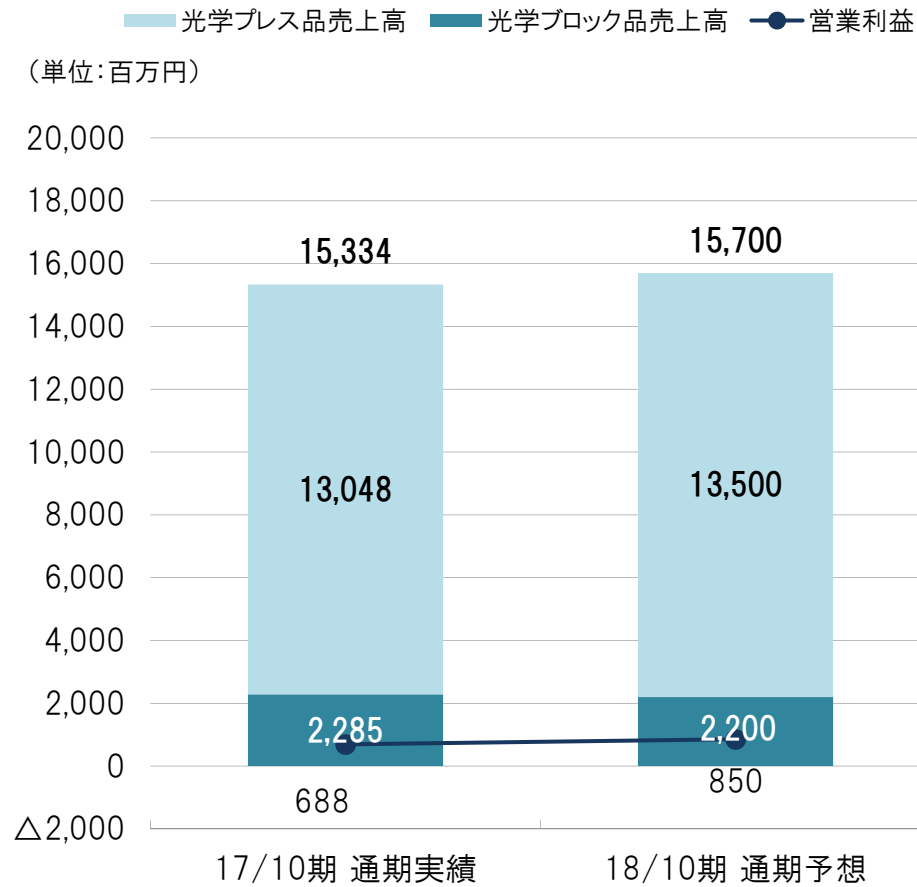
- デジタルカメラ市場は、ミラーレス機などの需要増により堅調に推移
- プロジェクター、監視カメラ、車載カメラなどの分野では、技術革新に伴い高品質な光学ガラスの需要が拡大

当社状況

- 高輝度・高精細プロジェクター、車載センシングカメラなどのハイエンド光学機器向けの新製品をタイムリーに開発、拡販を目指す
- ガラスモールドレンズの供給体制を構築し、レンズ加工品の販売比率を高めることで、光学ガラスの拡販と、利益率の向上を目指す

通期対比

半期推移



半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器向けの拡販に努めつつ、新製品の立ち上げに注力

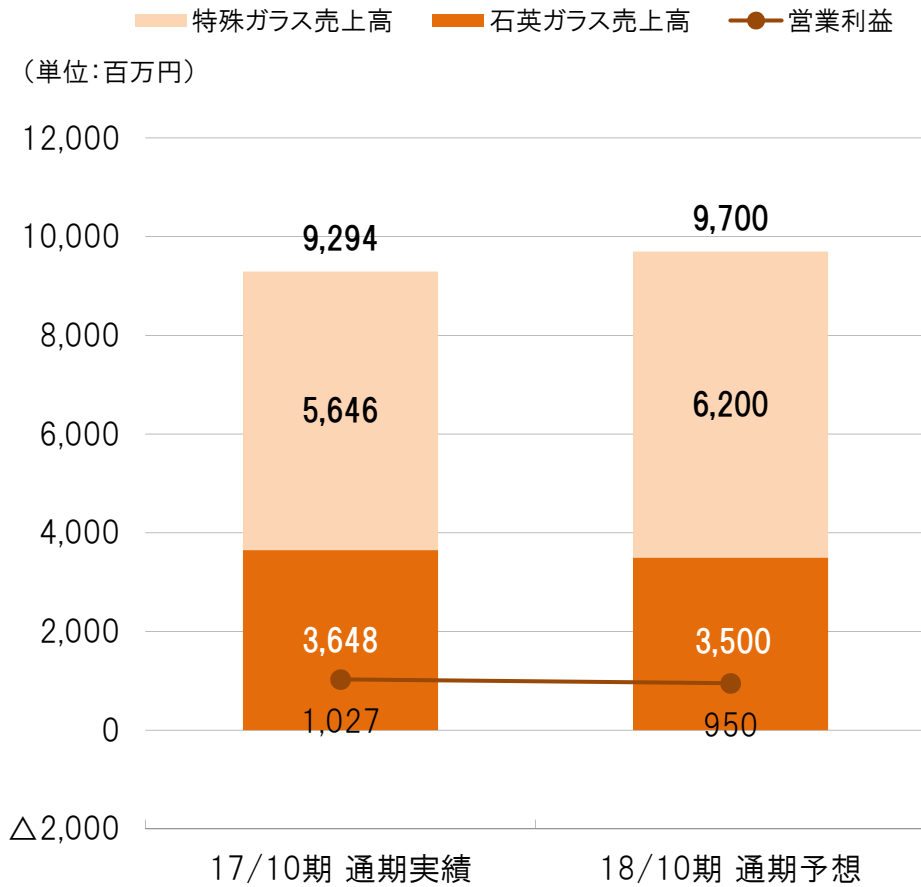
事業環境

- 半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器の需要は引き続き好調に推移
- 宇宙関連産業も拡大見込み

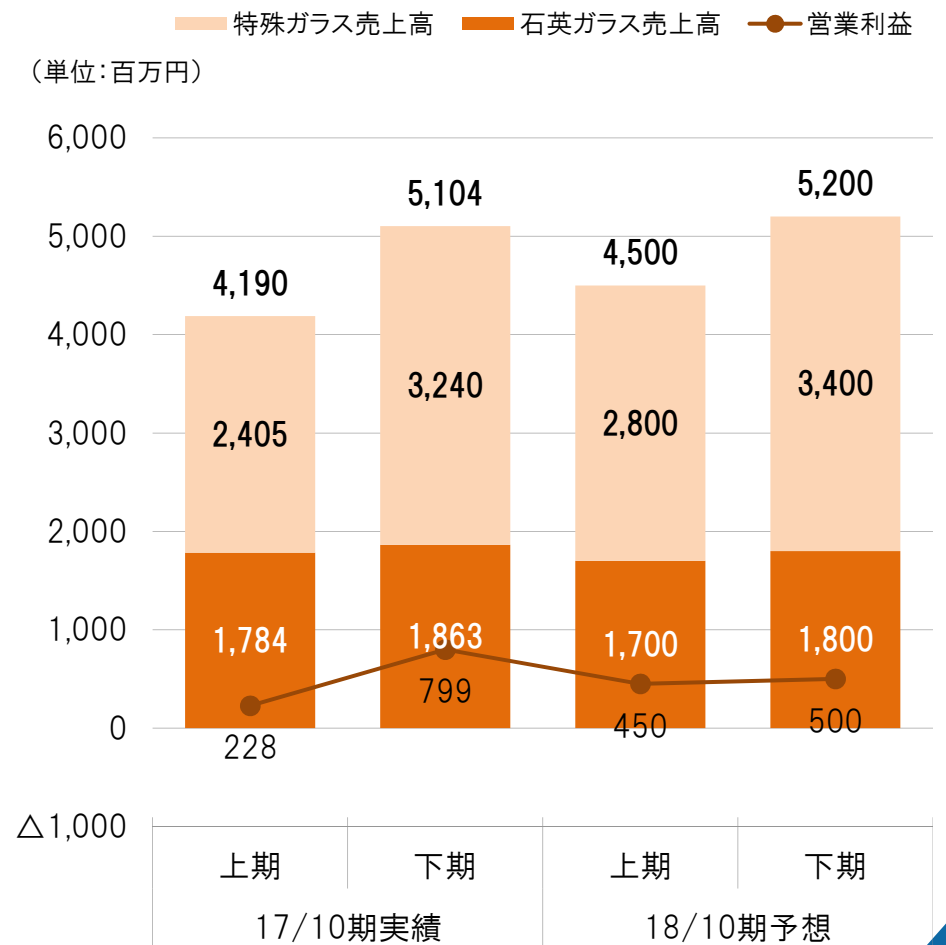
当社状況

- 半導体露光装置、FPD露光装置及び光通信関連機器向け拡販に努める
- 「ナノセラム™」は、スマートフォンの本体カバーガラス向けの採用を目指すとともに、筐体向けに着色を施した製品の開発を進める
- 「LICGO™」は、全固体電池向けとして求められる特性の実現に向けた開発活動を推進するほか、液系リチウムイオン電池の特性向上につながる添加材として採用を目指す

通期対比



半期推移



見通し数値まとめ

売上高

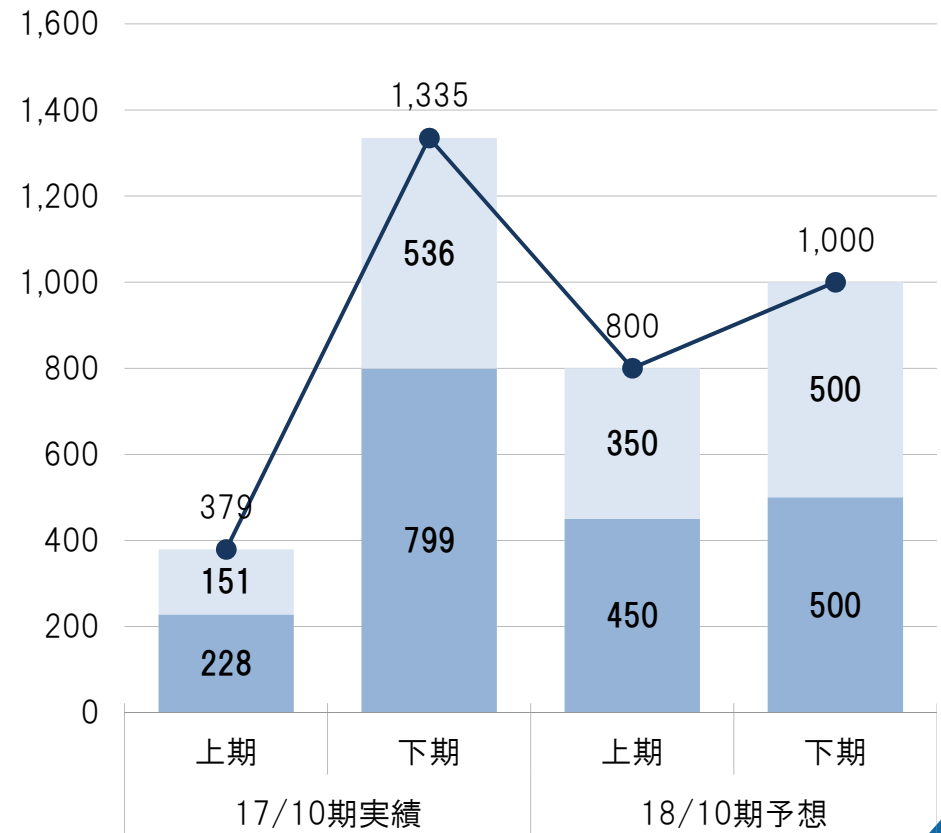
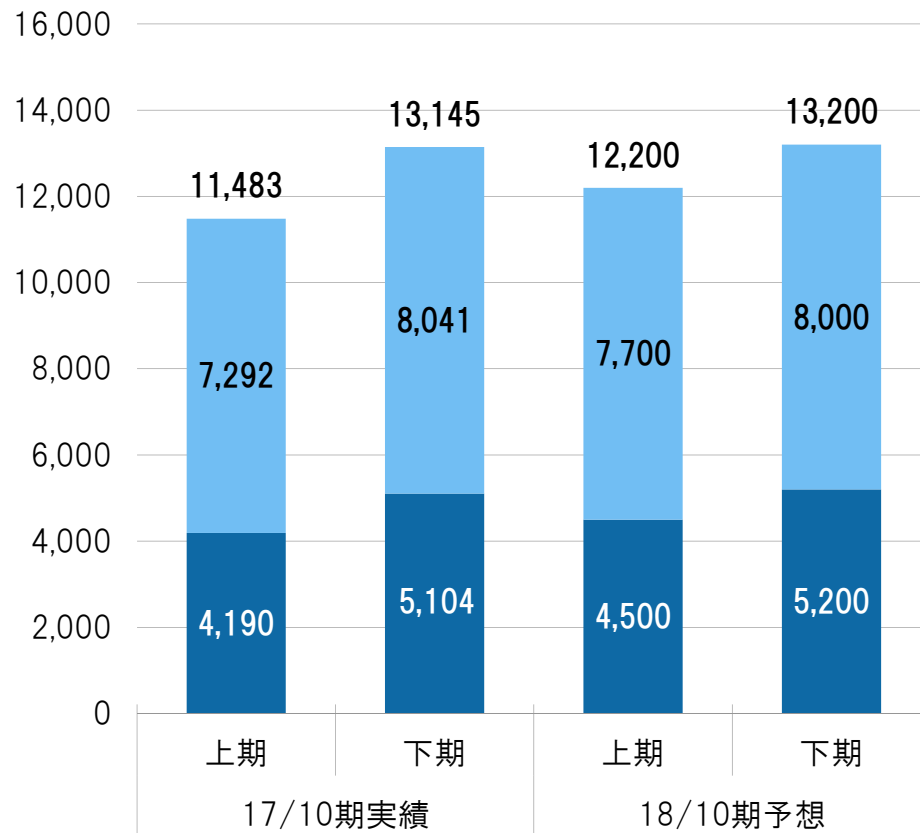
営業利益

■光事業 ■エレクトロニクス事業

■光事業 ■エレクトロニクス事業 ●合計

(単位:百万円)

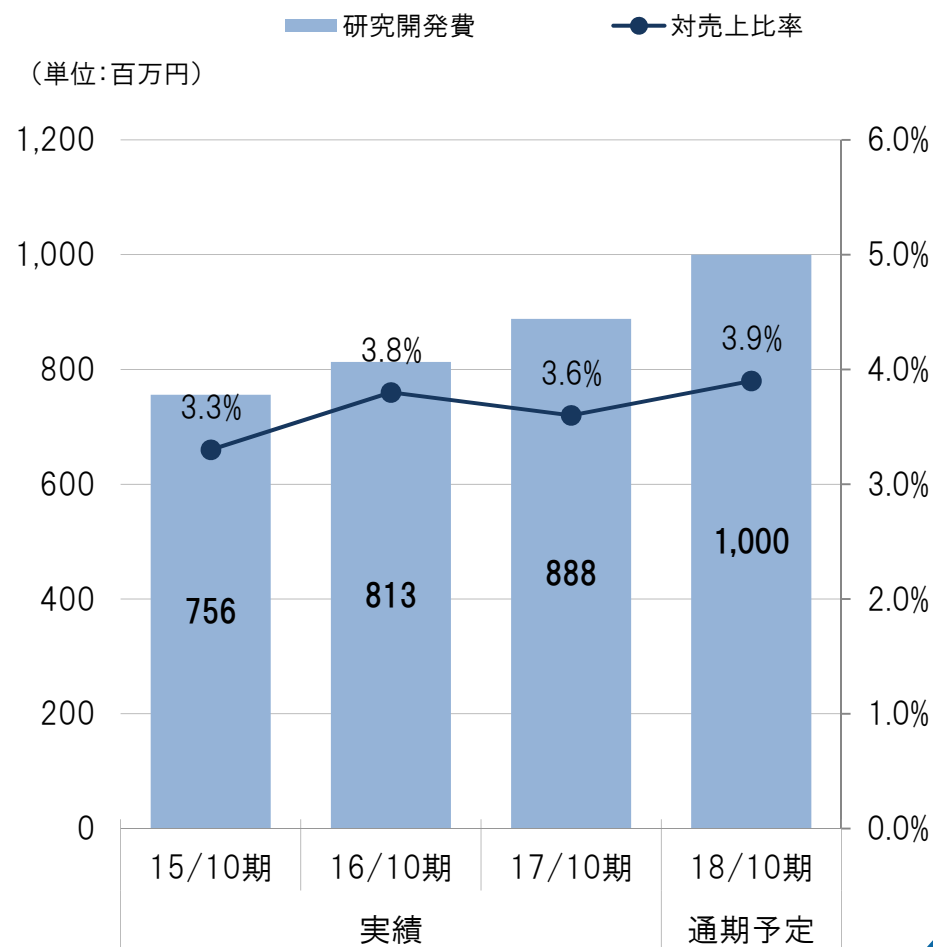
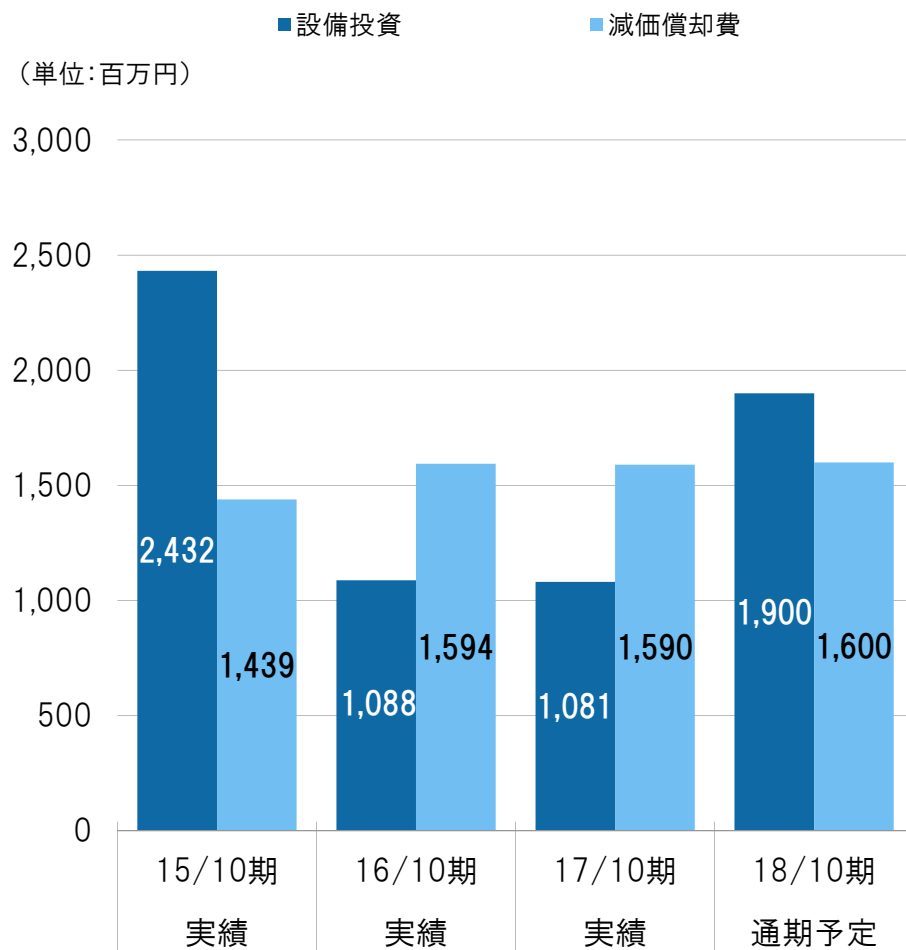
(単位:百万円)



設備投資、減価償却費、研究開発費

設備投資、減価償却費

研究開発費





- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。